

東京都

被推薦者 氏名 小島 大樹 (こじま だいき)

(満40歳 昭和52年7月30日生)

## 1 推薦の理由

小島指導教諭は、東京都小学校体育研究会のゲーム領域部会において、9年正副部長を務めた。その間、全領域部会の正副部長が集まる正副部長会でリーダーシップをとり、現職教員として研究を推進してきた。また、平成21年には、ゲーム領域部会の実証授業者として研究成果を発表した。

授業実践は、ゲーム領域部会以外にも豊富であり、毎年、体育の研究授業を行っている。平成24年には文部科学省の小学校中学年体育(運動領域)デジタル教材において、跳び箱運動の授業者となった。その実践の再生回数は中学年の中で一番多い。指導教諭になってからは、年3回模範授業を公開しており、東京都の小学校体育の指導教諭の中で一番参観者が多く集まっている。現状に満足せず、新たな取り組みにチャレンジしたり、授業の相談に乗ったりする姿勢から、多くの教員から慕われている。

以上のことから、東京都における研究の推進、多くの優れた授業実践をしていることから、小島指導教諭を推薦する。

## 2 被推薦者の「体育授業」の特徴、指導効果

### その成果の汎用性、成果を証明する資料等

○被推薦者の「体育授業」の特徴

小島指導教諭の授業の特徴として、児童との対話を通して、児童に知識・技能を定着させたり、思考力・判断力・表現力等を高めたりしていくことが挙げられる。以下に実践事例を通して、指導効果、その成果の汎用性等を示す。

○平成28年2月に実践した指導教諭の模範授業「第5学年ボール運動ゴール型『三小ハンドボール』『スリーサークルボール』を同時期に行う並行単元」

本実践では、主にボールを持たないときの動きの向上と態度の育成を目指した「スリーサークルボール」を副単元とし、技能や態度、思考・判断のバランスよい育成を目指した「ハンドボール」を主単元として、この2つの単元を同時期に展開していった。この実践では、それぞれのゲームの特徴を生かした授業展開を行ったことで、学習成果を生み出すような運動が用意され、児童が自ら進んで学習に取り組むことができていた。また、児童が自分でポイントを発見したと思えるように

単元構成されており、教師の発問が有効に働く実践であった。

本実践を参観した教員は、50名程度おり、協議会では「並行単元」について好意的な意見が多く、実践したいといった声が聞かれた。

○文部科学省の小学校中学年体育(運動領域)デジタル教材4年生跳び箱運動の実践

本実践では、毎時間の感覚づくりの運動を大事にししたり、繰り返し系、回転系のコツを児童との対話から引き出したりして、オノマトペでまとめたことで、多くの児童が開脚跳びや台上前転を習得することができた。

本実践の再生回数は13.6万回(平成29年6月時点)であり、本動画を使って多くの教員が教材研究をしている。

## 3 公的な大会・研修会等で発表した授業実践や講習会の講師を務めた講習内容等の概要

平成25年度第52回全国学校体育研究大会東京大会(平成25年11月15日)において、第8分科会調布市立第三小学校にて、研究主題を「かかわり合う中で、一人一人が高まるゲームの学習」とし、第4学年ゲーム領域ゴール型ゲーム「ペットボール」の授業者として授業を公開した。

平成28年全国学校体育実技指導者講習会小学校の部(平成28年7月25日)において、東京都千代田区立昌平小学校にて、研修テーマ「運動の楽しさや喜びを味わう実技研修」のもと、児童が楽しみながらゲーム領域における「思考・判断」を高めていけるような指導法について、鬼遊びやベースボール型ゲーム、ネット型ゲームを教材とした実技研修の講師を務めた。

4 勤続年数 17年

## 5 職歴

平成13年 武蔵村山市立第七小学校教諭  
平成19年 三鷹市立第三小学校教諭  
平成22年 三鷹市立第三小学校主任教諭  
平成25年 調布市立第三小学校主任教諭  
平成27年 調布市立第三小学校指導教諭